

編集 後記

インフルエンザの予防接種に関する総説が本誌に掲載されている。この冬には鳥インフルエンザの流行が懸念されたが、幸にして人々の間で流行することなくシーズンを終えた。しかし、5月になって大学生の間で麻疹が流行し、幾つかの大学が休校する事態となった。特に、小中高で教育実習をしなければならない学生を抱える大学では、学生に麻疹抗体があるか検査するなどの対応に追われている。この麻疹の流行について、予防接種による麻疹抗体の低下が要因であろうと言われているが、予防接種を受けていなかったケースもあると思われる。そもそも成人において、自身の予防接種を正確に認識している人はどの程度いるのであろうか。私が関わった調査によれば、麻疹や風疹などの予防接種について「受けたかどうかわからない」と回答するものが多く、殆どが曖昧な記憶になっていることが示されていた。わが国では、予防接種の有無については母子健康手帳を見れば記録から確認することができる。しかし、大学生はその母子健康手帳の存在を知っているのだろうか、また有ることは知っているも自身の成長過程に施された予防接種の記録を見ているのだろうか。多くの母親はわが子の成長記録として母子健康手帳を保管しているものの、成人になった子どもの健康に関わる記録として子どもに見せている人は少ないのではないだろうか。

成人麻疹の流行に対しては追加免疫の必要性も論議さ

7号予告 (第54巻・第7号)

原 著

Influence of an educational videotape on attitudes toward participating in cohort studies
Results of a randomized controlled trial

.....Mitsuko Ishii, et al

Correlates of Loneliness among Older Newar Adults in Nepal

.....Hom Nath Chalise, et al

公衆衛生活動報告

結核接触者健診における QuantiFERON® TB 検査導入の意義

.....小和田暁子, 他

資 料

4 か月児健康審査における児の睡眠調査

就床時刻と夜間覚醒の実態

.....羽山順子, 他

臨床経済学の基礎(1)

.....大久保一郎

れているが、保健・医療職、保育職、小中高の教育職に
つこうとしている学生には、母子健康手帳を活用して自
身の予防接種について認識するように指導したり、風疹
のことを考えれば高校生の時点で指導することがあって
もいいのではないかと感じた次第である。

(市川誠一)

感染症の危機管理国際フォーラム

International Forum of Crisis Management for Infectious Disease

メインテーマ「医療機関・行政・地域・企業での感染症（院内感染を含む）危機戦略」

会 期：2007年11月17日（土）～18日（日）

会 場：東京大学医学部本郷キャンパス

主 催：国際予防医学リスクマネジメント連盟、共催：日本予防医学リスクマネジメント学
会

後 援：日本公衆衛生学会、分子予防環境医学研究会、その他

目 的：新型肺炎など新興感染症に対する国際的な包括的危機管理システムの戦略ならびに院内
感染対策の質の向上について国内外の参加者を交えて討議を行います。

公用語：英語（日本語専用の会場が併設されています）

参加費：有料。（申し込みなどの詳細は下記ホームページをご覧ください）

日本人の一般演題登録期間：2007年8月20日（月）～9月20日（木）午前12時

参加申し込み受付期間：2007年10月20日（土）

国際フォーラム・ホームページ：<http://www.urmpm.org/Jinfection2007/>

担当事務局：国際予防医学リスクマネジメント連盟本部

（〒）113-0033 東京都文京区本郷4-36-2-103

（電子メール）jsrmpm-office@umin.net（TEL/FAX）03-3817-6770